

記者発表資料

大阪経済記者クラブ会員各位

平成27年2月25日

「ミナミの賑わいづくり、魅力発信に向けた提言」 ～インバウンドの拠点として、“世界一歩いて楽しい観光都市”をめざして～

【お問合せ先】

大阪商工会議所地域振興部 常深（つねみ）・中村
☎06（6944）6323

- 大阪商工会議所 都市活性化委員会（委員長：錢高一善・㈱錢高組取締役社長）は、このほど大阪におけるインバウンドの拠点として、ミナミの活性化をはかる提言をとりまとめた。これは、地元はじめ幅広い企業をメンバーとする「ミナミの賑わいづくり、魅力発信に向けた研究会」（座長：長谷川恵一・本会議所議員、都市活性化委員会副委員長）において昨年9月から検討してきたもの。
- 近年大阪都心部では、「グランフロント大阪」や「あべのハルカス」がオープンし、話題と注目を集めているが、大阪全体が発展・繁栄していくためには、いくつかの代表的な拠点がそれぞれに個性を磨き、互いに競いあいながら、多様な魅力を発信していくことが重要である。
- 特に、インバウンド観光が急増するなか、大阪における受け入れ拠点としてポテンシャルが高いミナミの発展を図ることは、大阪全体の集客力強化につながることから、提言では観光都市として必要なインフラ再整備が急務と指摘している。
- 具体的には、「世界一歩いて楽しい観光都市ミナミ」を将来像に掲げ、そのための戦略として、「歩行者回遊ネットワークの拡大」に向けた「シンボルとなる拠点や名所の再整備」や、エリア全体での情報発信のための「ミナミ一体となったマネジメント組織の設立」等を提案している。
- 今後、先導プロジェクトと位置づける「なんば駅前の広場化」の実現に向け、大阪市に対し、官民による合同組織での検討や社会実験の実施を働きかけていく。

<提言内容のポイント>

（１）インバウンド観光の急増

- 世界的に観光産業が拡大するなか、日本・大阪においてもインバウンドが急増。
- 来阪外国人旅行者数：2013年の260万人から2020年には650万人に倍増と予想。

（２）観光都市化に向けた、ミナミのポテンシャルと課題

①ポテンシャル

- ・アジアの観光客が求める、食やファッションなどクールジャパンの魅力が集積
- ・それらを路地や水辺、地下街など多様な回遊ネットワークで楽しみやすい

②課題

- ・ 大阪におけるインバウンドの拠点として、外国語表示や案内拠点など、観光客を受け入れるハード・ソフト両面でのインフラ再整備が急務

(3) 将来像

世界一步いて楽しい観光都市“ミナミ”

クールジャパンの多様な魅力と歴史的資源がエリアごとに集積し、それぞれが面としてつながり回遊性を持つ、大阪ならではのユニークな個性を創出するまち

(4) 将来像実現に向けた戦略

①歩行者回遊ネットワークの拡大

・ シンボルとなる拠点・名所の整備活用

なんば駅前広場の再整備、御堂筋のフェスティバルモール化、とんぼりリバーウォークのさらなる活性化

・ 回遊性を強化する交通マネジメント

歩いて楽しめるゾーンへの車両・自転車の乗り入れを制限し、なんば駅前広場からの歩行者優先ネットワークを形成。それにともなう業務車両、通行車両等の対策を行う

②エンターテインメント産業の創出、及び人材の育成

・ アジアを代表するエンターテインメント拠点の創出

食やエンターテインメント分野のアジアを代表するコンテストやフェスティバルの開催等

・ インバウンド観光を支える人材育成機関の整備

インバウンドへのホスピタリティ充実を図る人材育成機関を創出する

③ミナミ一体となったマネジメント組織の設立

広場の管理活用やミナミの一体的な情報発信を担う推進体制を整備する

④ミナミから大阪・関西全体への発展につなげる展開

インバウンド観光客の長期滞在に向け、世界遺産が集積する京都や奈良、また南大阪の古墳群、高野山などへの結節点としての機能を強化する

(5) 将来像実現に向けたアクションプラン（2020 年に向けた先導プロジェクト）

①なんば駅前の広場化

世界各都市で、歩行者優先の都市空間整備が進んでいることから、「世界から観光客を迎え、まちに繰り出していく広場」化に向け、官民が連携して検討を進め、社会実験を実施する

②ミナミ活性化に向けたまちづくり組織の再編・機能分担

様々な主体がミナミの活性化に向けて取り組んでいるなか、それら組織の統合や再編、役割分担等、一体的な魅力創出、情報発信を行う体制を整備する。

(6) 今後の取り組み

- 先導プロジェクトである「なんば駅前の広場化」の実現に向け、大阪市に対し、官民による合同組織での検討や社会実験の実施を働きかける。

以 上

- <添付資料> ○「ミナミの賑わいづくり、魅力発信に向けた提言」
 ○大阪商工会議所 都市活性化委員会
 「ミナミの賑わいづくり、魅力発信に向けた研究会」概要

(別紙)

大阪商工会議所 都市活性化委員会
ミナミの賑わいづくり、魅力発信に向けた研究会

【検討体制】

(企業・団体名五十音順、敬称略)

< 座 長 >		
学校法人エール学園	理事長	長谷川 恵一
< 副 座 長 >		
南海電気鉄道株式会社	常務取締役	高木 俊之
< アドバイザー >		
大阪府立大学教授	観光産業戦略研究所 所長	橋爪 紳也
< 委 員 >		
アメリカ村の会	顧問	井原 正博
大阪ガス株式会社	秘書部 経営調査室長	近藤 誠一
大阪観光局	副局長	大川 達也
大阪市中心区南商店会連合会	会長	千田 忠司
大阪商工会議所	中央支部支部長	松本 孝
株式会社大林組	開発事業本部 大阪開発推進第三部 副部長	門重 学
関西電力株式会社	総合企画本部 地域エネルギー開発グループ 部長	藤野 研一
近畿日本鉄道株式会社	総合戦略室 事業開発部 部長	野口 豊
株式会社クボタ	総務部 マーケティング担当部長	荻田 真一郎
京阪電気鉄道株式会社	経営統括室 事業推進担当 (大阪地区) 部長	江藤 知
新関西国際空港株式会社	航空営業部 部長	小関 貴裕
一般社団法人水都大阪パートナーズ	アドバイザー	森本 啓
株式会社銭高組	営業部営業課 副課長	赤松 伸一
株式会社大丸松坂屋百貨店 心斎橋店	営業推進部 店舗戦略スタッフ	宇佐美修司
大和ハウス工業株式会社	本店建築事業部 第四営業部 部長	加藤 一郎
株式会社高島屋	大阪店営業企画担当部長	橋本 逸郎
株式会社竹中工務店	開発計画本部長 (西日本担当)	高梨雄二郎
株式会社竹中工務店	開発計画本部 西日本2グループ 副部長	橋岡 佳令
西日本電信電話株式会社	秘書室 担当部長	大野 敬
ミナミ歓楽街環境浄化推進協議会	会長	岡本 敏嗣
< 事 務 局 >		
大阪商工会議所	地域振興部部長	中野 亮一
	地域振興部課長	中村 裕子
	地域振興部	常深 久代

(以上 26 名)

◆検討内容

＜第1回研究会：9月4日＞

1. 「ミナミの賑わいづくり、魅力発信に向けた研究会」について
2. ミナミをとりまく現状について
3. ミナミの一体的な賑わいづくり、魅力発信にむけた課題について

＜第2回研究会：10月14日＞

1. 話題提供「インバウンド観光からみた、ミナミの魅力と課題」
大阪観光局副局長 大川達也氏
2. 話題提供「御堂筋緩速車線の歩行者空間化について」
大阪市建設局企画課長 山向薫氏

＜第3回研究会：11月19日＞

1. 象徴的な拠点に関するミナミの現状について
2. 賑わいと交流を生み出す『まちなか広場』について
全国まちなか広場研究会理事 山下裕子氏
3. なんば駅前広場の検討状況について
南海電気鉄道株式会社事業戦略室難波ビル建設部長 西川孝彦氏

＜札幌視察会：11月30日～12月1日＞

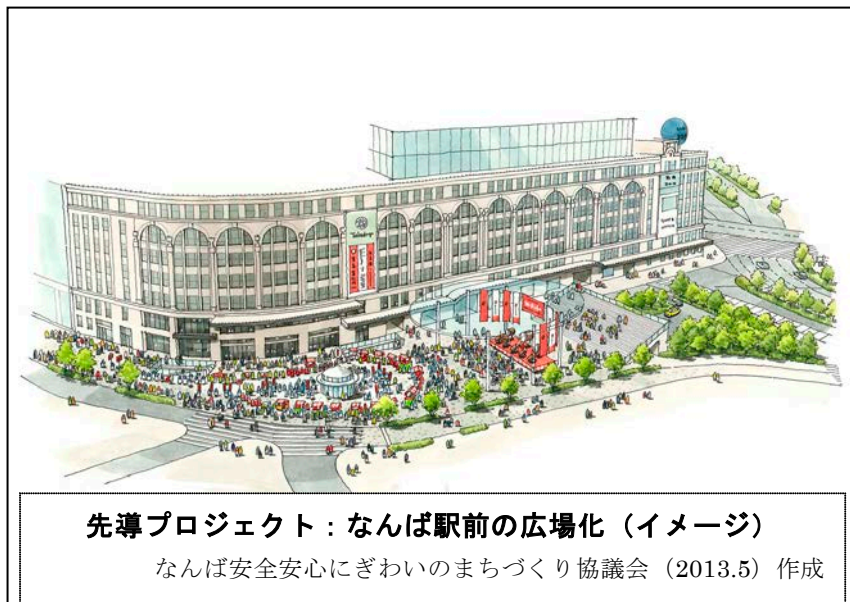
1. さっぽろホワイトイルミネーション視察
2. 札幌大通まちづくり会社ヒアリング
3. 札幌商工会議所都市まちづくり委員会ヒアリング
4. 札幌市観光文化局観光コンベンション部ヒアリング

＜第4回研究会：12月9日＞

1. 札幌大通まちづくり会社、札幌観光戦略等、視察報告
2. ミナミの活性化に向けた提言 骨子（案）

＜第5回研究会：1月26日＞

1. ミナミの賑わい創出、魅力発信に向けた提言（案）について





ミナミの賑わいづくり、魅力発信に向けた提言
「世界一歩いて楽しい観光都市ミナミ」の実現に向けて

町衆のアイデアとパワーで発展してきた街「ミナミ」

日本を代表する繁華街「ミナミ」

江戸時代より道頓堀五座と呼ばれる芝居小屋を中心に、茶屋などの飲食店が多く立ち並ぶ道頓堀界隈や、大正時代に銀座をそぞろ歩く銀ブラに対して「心ブラ」という言葉を生んだ心斎橋筋界隈など、ミナミは古くから、大阪はもちろん日本を代表する繁華街として賑わってきた。

近年は、梅田や阿倍野周辺の大規模な商業施設開発の狭間に立ち、繁華街として苦戦を強いられてきたが、ここ数年は、観光やショッピングを目的とするアジアからのインバウンド客が急増している。今後はこうしたインバウンドの受け入れ体制を整え、ミナミの魅力をアピールすることが望まれる。



活発なまちづくり活動

ミナミの街は、これまで地元のアイデアとパワーによって、様々な新しいまちづくり活動を展開してきた。1970年代からのアメリカ村、またヨーロッパ村と呼ばれた東心斎橋に、新しいまちが創出されたのをはじめ、近年の南船場や堀江の賑わい創出など、個性的なまちづくりで他のエリアをリードしてきた。一方、道頓堀川沿いにはボードウォークが設置され、新たな話題を提供している。

また御堂筋オープンフェスタやラジオ局など一体になったアートイベント、冬のイルミネーション等のイベントプロモーションも活発に行われるなど、地元商店街や企業、市民等によって、たくさんのまちづくり団体が結成され、ユニークな発想で賑わいが創出されている。



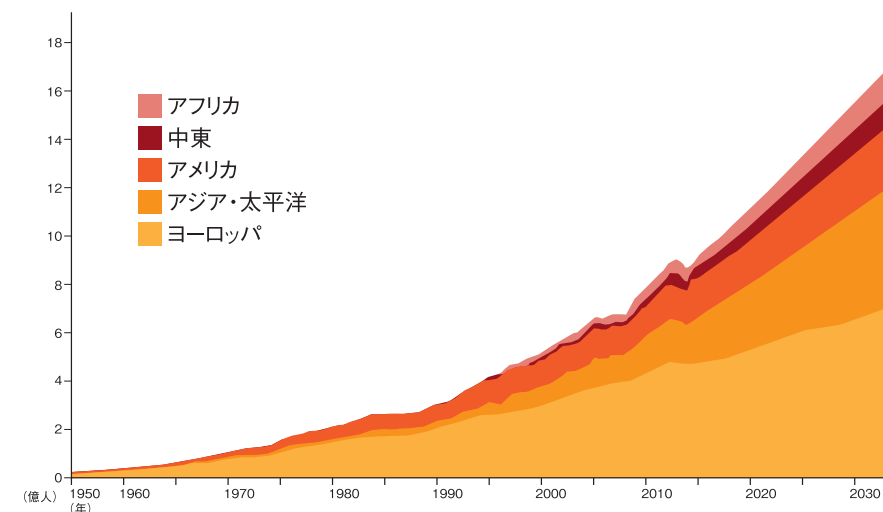
インバウンド観光の急増

世界の観光産業の拡大

国連世界観光機関 (United Nations World Tourism Organization、以下「UNWTO」) が 2011 年に発表したレポート「Tourism towards 2030 Global Overview (2030 年に向けた観光業のグローバルな展望)」によると、国際観光客到着数で見たグローバルな観光市場は、2010 年の 9 億 4 千万人から 2030 年には 18 億人へと倍増する見込み (年平均成長率: 3.3%) である。なかでも、観光産業の今後の成長を牽引していくと予想されるのは、アジア・太平洋地域である。

国際観光客到着数の実績値と予測値

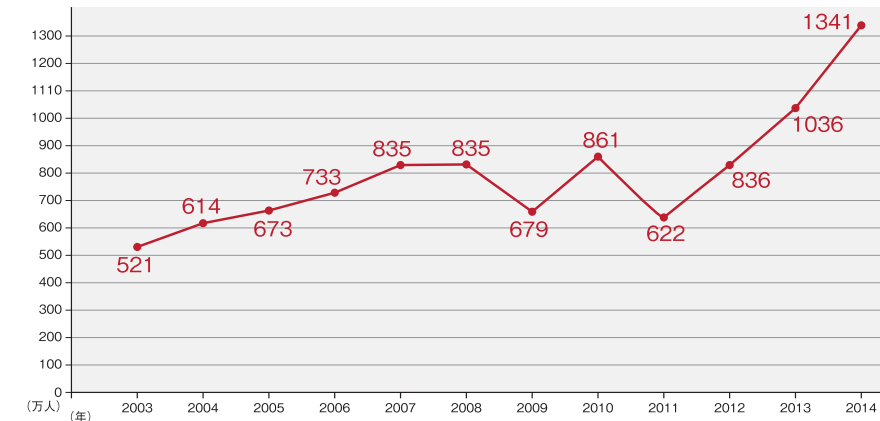
・出典: UNWTO



年	全 体	うちアジア・太平洋地域	
2010年	9.4億人	1.81億人	19.3%
2020年	13.6億人	3.18億人	23.4%
2030年	18.1億人	4.8億人	26.5%

訪日外客数の推移 (単位／人数(万人))

・出典: 日本政府観光局

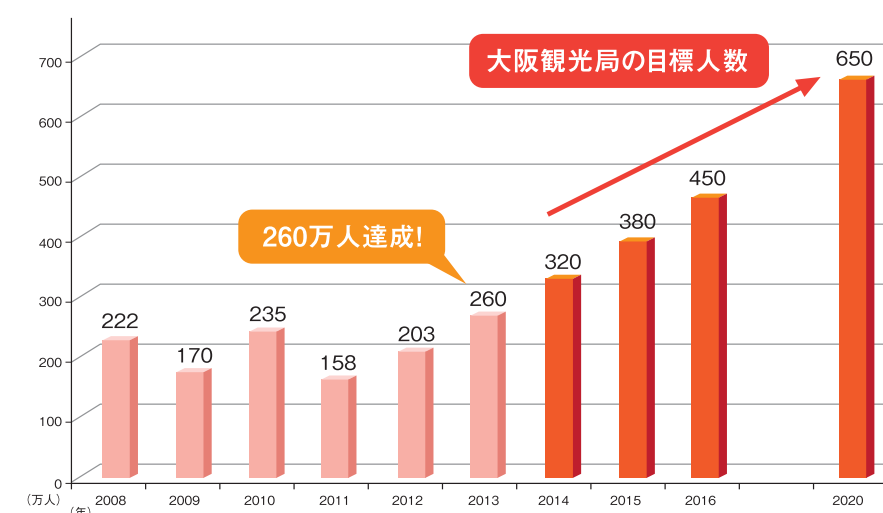


大阪のインバウンドも急増

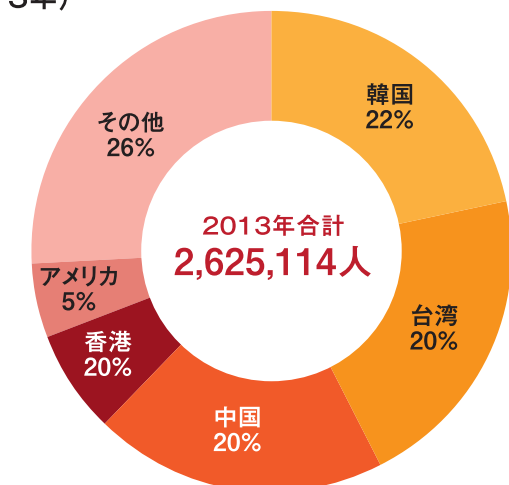
こうしたなか、訪日外客数も大きく増加しており、2014年の訪日外客数は、1,341万人で、これまで過去最高であった2013年の1,036万人を300万人余り上回った。大阪においても、2013年の来阪外国人旅行者数は260万人で、前年(203万人)から29%増加した。また今後2020年には、650万人になると予想されており、急増するインバウンド観光客に対応できる、まちの受け入れ体制づくりが急がれる。

来阪外国人旅行者数

・出典: 大阪観光局



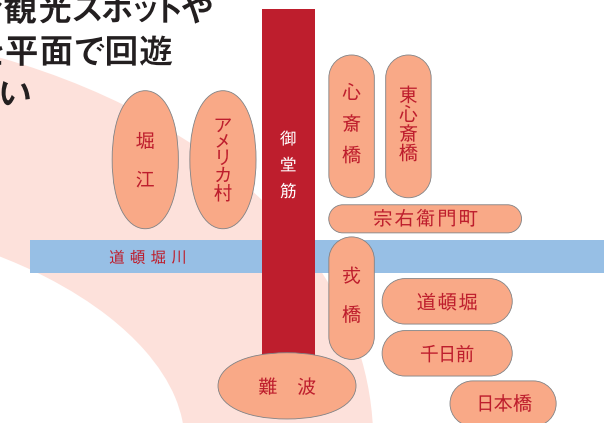
国・地域別来阪外国人旅行者数 (2013年)



1 アジアの観光客が求める、
現代の日本文化が体感できる魅力が集積している
(食、ファッション、ショッピング、家電、エンターテインメント、等々)



2 様々な観光スポットや
魅力を平面で回遊
しやすい



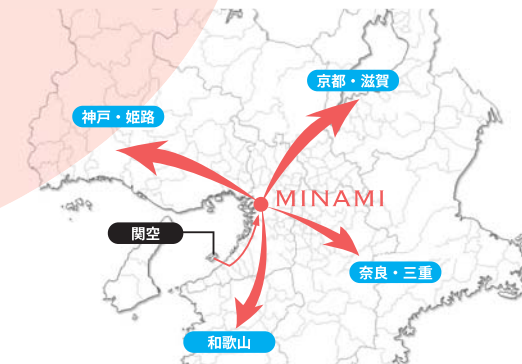
3 シンボルストリート、ショッピングストリート、路地、水辺
また地下街など、多様な歩行者回遊ネットワークがある



**4 関空から大阪都心部への
玄関口である**



5 世界遺産が集結する、奈良、和歌山、京都
そして、神戸等周辺観光の結節点である



大阪が世界有数の観光都市になるには、ミナミの活性化が不可欠

- ① 増え続ける観光客を受け入れる、ハード&ソフト両面でのインフラが不十分である
(ホテル、観光バス駐車場、外国語標示板&看板、案内拠点、トイレ、ロッカー、免税対応、IT環境の整備、等々)
- ② 自動車、自転車、歩行者が混在している交通環境である
- ③ シンボルとなる拠点、名所が少ない
- ④ 一体的なプロモーションが行われていない
- ⑤ 観光産業を支える人材が不足している



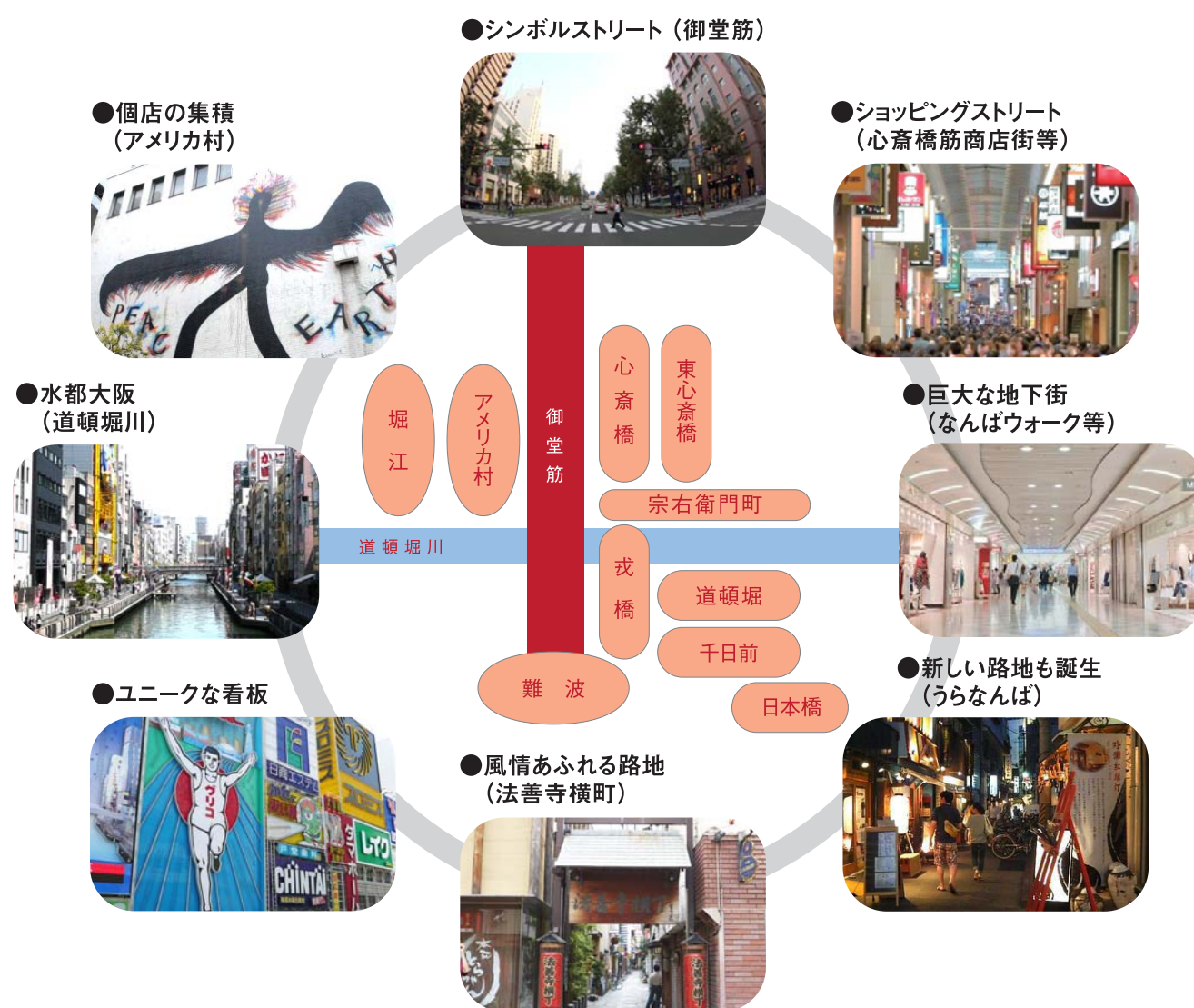
観光都市として必要なインフラの再整備が急務

ミナミの将来像

世界一歩いて楽しい観光都市

クールジャパンの多様な魅力と歴史的資源がエリアごとに集積し、
それぞれが面としてつながり回遊性を持つ、
大阪ならではのユニークな個性を創出する街、“ミナミ”

回遊して楽しめるネットワーク



クールジャパンの集積

ファッションは、アメリカ村や心斎橋筋など、またエンターテインメントなら道頓堀や難波、アニメなら日本橋というように、エリアごとに多様な文化が集まるミナミの街の文化を国内外の観光客に回遊して楽しんでもらえるようなハード&ソフト面の整備を行い、クールジャパン=ミナミの街という新しいイメージづくりをすることが必要と考える。



歩行者優先の都市空間整備は、世界的な潮流

歩行者優先の整備
(歩道拡幅、広場整備、川沿いの遊歩道整備、自転車道の整備等)

歩行者利用・自転車交通の拡大
まちのアクティビティの増加
まちの滞在時間の延長

①メルボルン(オーストラリア)

- ・1993年頃から、10年計画で、大規模な都市再生事業を実施
- ・新しい広場の整備、歩道の拡幅、歩行者の散策と滞留のためにヤラ川沿いにアーケードと遊歩道整備
- ・歩行者交通は、昼間39%増加、夜間は2倍に増加
アクティビティは3倍に増加
(1994年から2004年の増加率)

※『人間の街 公共空間のデザイン』
(ヤン・ゲール著、鹿島出版会、2014年) から抜粋



②コペンハーゲン(デンマーク)

- ・1962年に、目抜き通りであるストロイエを歩行者専用道路に改造
- ・最初の年だけで歩行者数が35%増加
- ・多くの街路や駐車場が広場に改造され、歩行者と都市アクティビティのための領域が、1.5万㎡から10万㎡へと約7倍に増加
(1962年から2005年の増加率)
- ・夏季の平均滞留活動数は、3.4倍に増加
(1968年1750人⇒1995年5900人)
- ・自転車交通の快適性と安全性を高めるため、街路網を再編成

※『人間の街 公共空間のデザイン』
(ヤン・ゲール著、鹿島出版会、2014年) から抜粋



③ミュンヘン(ドイツ)

- ・1972年のミュンヘン・オリンピック時に都心部に導入されたミュンヘン・モールは今や全長15km、総面積10万平方kmにも及ぶ世界最大の完全フルモール。
- ・自動車の乗り入れを制限したトランジットモール(歩行者、自転車、路面電車に特化した歩行者道路)も充実。



④ストラスブール(フランス)

- ・ストラスブール市は世界で初めて完全低床車両を導入しLRT(新世代路面電車)の運行を開始。
- ・トラム導入のメリットとして環境要素、経済効果、街の景観美の再整備、交通事故の減少が挙げられる。
- ・25の地方都市ですでにLRTが運行され、2013年に新たに4都市でLRTが開通する。さらに13の都市でLRT導入が企画されている。



⑤ポートランド(アメリカ)

- ・ライトレール(MAX)の設置
ポートランド市中心部には無料乗車ゾーンが設定され、この区間内では公共交通(MAX、バス、トラム)がすべて無料。MAXは市の中心部を走っているため、この無料ゾーンは市民にとってとても便利なシステムになっている。
- ・『SmartTripキャンペーン』(主に地図の配布や、他の交通の安全性等をアピールした)により、公共交通、自転車の利用や徒歩での移動が増加。



⑥ニューヨーク(アメリカ)

- ・2009年から、タイムズスクエアでブロードウェイの車道空間の歩行者プラザ化(約7000㎡)に着手、2014年夏に概ね完成。
- ・工事期間中から、空間管理実験を行ない、今後、管理をBID団体に引き継ぐ予定。
- ・自転車走行空間の整備を行い、2013年5月から、コミュニティサイクルを導入。
(貸自転車6千台(目標1万台)、バイクステーション330か所(目標600か所))



将来像実現に向けた戦略

1 歩行者回遊ネットワークの拡大

① シンボルとなる拠点・名所の整備活用

◎なんば駅前広場の再整備

- ・世界に発信するアイコン、歩行者優先を示すシンボルとなる広場をつくる
- ・発信と表現の場、街に繰り出す起点として、賑わいを創出する
- ・広場から、御堂筋、精華小学校跡地、新歌舞伎座跡地へと賑わいをつなげる

◎御堂筋のフェスティバルモール化

- ・閉鎖される御堂筋側道の、賑わいに資する活用を試みる

◎とんぼりリバーウォークのさらなる活性化

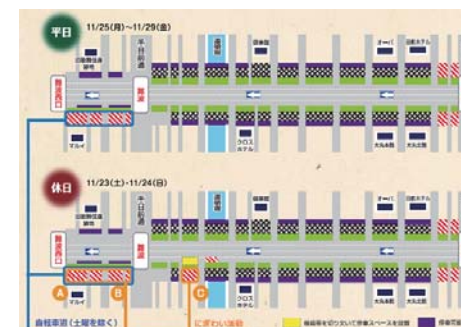
- ・水都大阪のシンボルとして、ステージ船の活用等、とんぼりリバーウォークのさらなる活性化とともに、なんば駅前広場や御堂筋との一体活用を図る



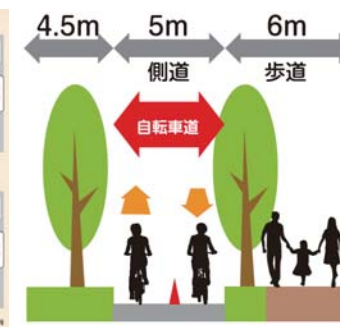
※なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会(2013.5)

② 回遊性を強化する交通マネジメント

- ・歩いて楽しめるゾーン(千日前、道頓堀等)への車両・自転車の乗り入れを制限し、なんば駅前広場から御堂筋、路地、水辺を回遊する歩行者優先のネットワークを形成する
- ・公共交通や自転車、歩行者、水運をスムーズにつなぐ
- ・観光バス、業務車両、通行車両等の対策を実施する
- ・レンタル自転車の有効活用を検討する



※御堂筋側道の社会的実験



2 エンターテインメント産業の創出、及び人材の育成

① アジアを代表するエンターテインメント拠点の創出

- ・食やエンターテインメント分野において、アジアを代表するコンテストやフェスティバルを開催する。またそれらが日常的に楽しめるエリアの創出などを通じ、関連産業の振興を図り、新たな投資を呼び込む
- ・ミナミで開催されている既存イベントをインバウンド向けに転換し、国内外からの関心を引き込む



② インバウンド観光を支える人材育成機関の整備

- ・インバウンドへのホスピタリティ充実を図るためのノウハウや技術を習得するための人材教育機関を創出する



3 ミナミ一体となったマネジメント組織の設立

- ・公共空間である広場の管理活用を行うとともに、ミナミの一体的な情報発信を担う推進体制を整備する
- ・ミナミエリア全体のポータルサイトとなるウェブサイト運営する
- ・ミナミエリア全体のインフォメーション拠点をつくり、案内機能を強化する
- ・各商店街や集客施設等と連携し、イルミネーション等の夜景づくりを強化するとともに、インバウンド向けにメニューや案内標識等の多言語化、免税対応を図る



4 ミナミから大阪・関西全体への発展につなげる展開

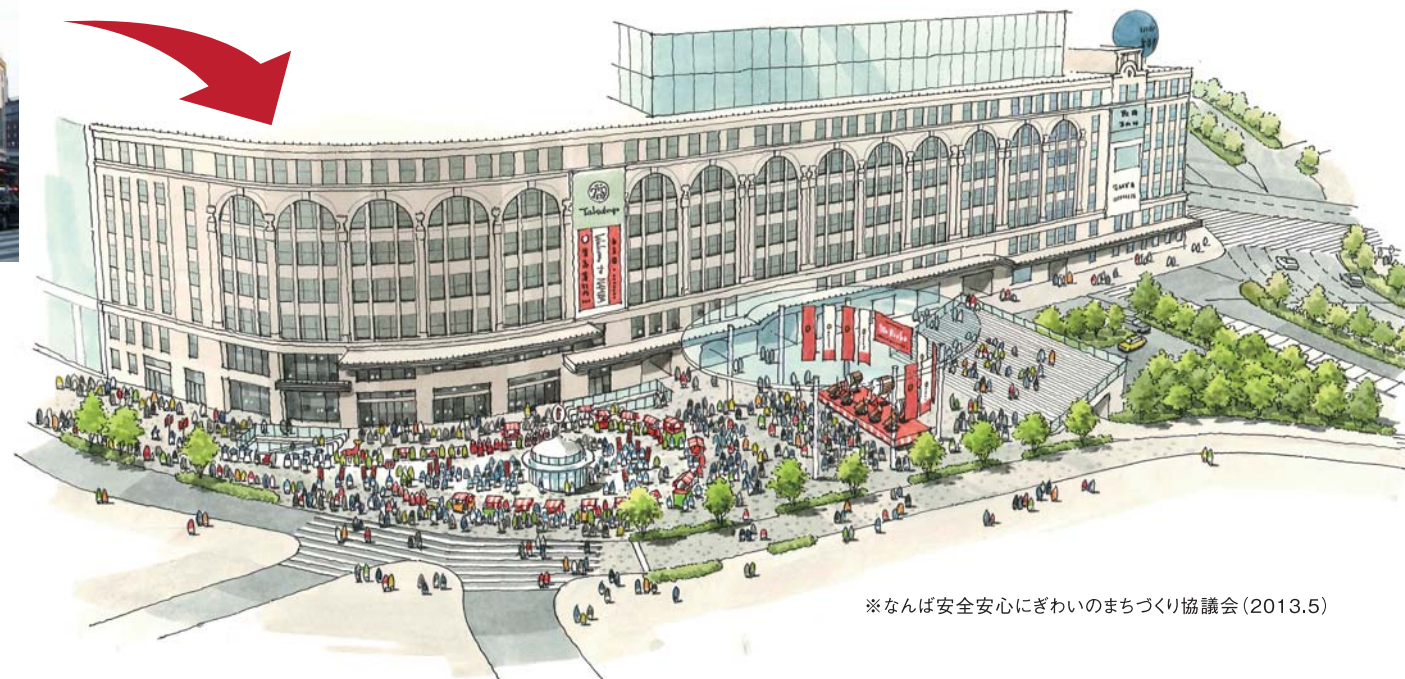
- ・インバウンド観光客の長期滞在に向け、世界遺産が集結する京都や奈良、また南大阪の古墳群をはじめ、開山1200年を迎える高野山など、歴史的史跡をインバウンドに紹介する窓口、結節点としてのミナミの機能を強化する



将来像実現に向けたアクションプラン(2020年に向けた先導プロジェクト)

① なんば駅前の広場化

「世界から訪れる観光客を迎える広場」「まちに繰り出していく広場」として、なんば駅前広場の整備に向け、官民が連携して検討を進め、社会実験を実施する。



※なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会(2013.5)

② ミナミ活性化に向けたまちづくり組織の再編、機能分担

商店街やエリアごとの団体、まちづくり団体(「ミナミまち育てネットワーク」等)に加え、「みんなdeミナミ」、「大阪ミナミ光マッセ」、「いっとこミナミ」など、横断的に活性化をはかる取り組みが進みつつあるなか、それら組織の統合や再編、役割分担等、一体的な魅力創出、情報発信を行う体制を整備する。

先導プロジェクトの進め方とスケジュール

STEP 1 (2015) なんば駅前広場活用に向けた官民による検討組織の設置

先導プロジェクトの実現に向けた検討組織の設置
(行政関連部局、地元事業者、交通事業者、学識者、大商等で構成)
(なんば駅前広場の再整備とそれに伴う交通再編についての基本計画、事業スキーム、役割分担、ロードマップの共有、地元合意形成、等)
(一体的なプロモーション方策の検討)
御堂筋歩行者空間化の設計・工事

STEP 2 (2016～2019) 社会実験の実施

検討組織による、社会実験の実施
(広場活用実験、交通再編実験、等)
(広場の管理運営実験、広告・協賛企業募集、等)
(一体的なプロモーション実験、まちづくり組織のあり方検討、等)
御堂筋歩行者空間の完成
広場化の設計・工事

STEP 3 (2020) 事業実施

エリアマネジメント組織の設立
広場の利活用スタート